



町内会は宝の山、そして実習場

協働パターン 町内会とNPO



概要

主体者名称	下馬場町内会				町会設立年	1958年	
協働先	NPO 法人ゆどうふ、一般財団法人町田市地域活動サポートオフィス、町田市堺第2高齢者支援センター						
所在地	東京都町田市	町会加入世帯数	約 360	加入率	61%	町会運営メンバー	4人 平均 73歳
地域の状況	町田市小山町東部の町内会。境川を隔てて神奈川県相模原市に隣接する。住民の約3分の1が高齢者であるものの、若い世代の転入も増えている。						
協働の内容	町内の交通量の多い狭隘道路に面する民有地の草刈りを、NPO法人ゆどうふ（以下、ゆどうふ）が運営するわらしべワークプロジェクト※の若者と共に実施した。 ※NPO法人ゆどうふが実行委員会形式で運営する、ひきこもりや生きづらさを抱える若者が地域の日常的な困りごとの解決を有償で担う事業						

協働のきっかけ

町内会では、地域の宝である人材を発掘し、彼らの「地域のために何かしたい」という想いを生かす場を探っていました。その想いが「わらしべワークプロジェクト」の展開を考えていたゆどうふと一致し、プロジェクトの実行委員会に参画することになりました。つながりが生まれたきっかけは、プロジェクトの実行委員でもある、堺第2高齢者支援センター（以下、支援センター）がゆどうふと高齢者の活躍の場について話し合っていた際、介護予防サポーターに登録していた町内会の副会長をゆどうふに紹介したことでした。

回答者

下馬場町内会副会長
たなか まさはる
田中 正治 さん



NPO 法人ゆどうふ
スタッフ
みね たかし
峰 崇 さん

一般財団法人町田市地域活動
サポートオフィス事務局長
きだ りょうこ
喜田 亮子 さん

町田市堺第2高齢者支援センター
センター長
やなぎはら じゅんこ
柳原 順子 さん

取組内容

町内会エリアにある交通量の多い狭い急坂では、雑草が生い茂って運転者の視界を遮っていることが問題となっていました。そのため、ゆどうふのわらしべワークプロジェクトに相談し、除草作業をお願いしました。除草現場近くの住民、草刈機を所有している住民、わらしべワークプロジェクトの若者が協力して除草作業を実施し、刈った草の処理は市役所に依頼しました。

協働で工夫したポイント

ゆどうふ

地域の方とボランティアスタッフ、若者たちが、支援・被支援という枠組みを意識せず、作業を一緒に行うことを大切にしました。

コーディネーター（町田市地域活動サポートオフィス）

定例会の開催や、それ以外にも会議などの接点ポイントを多く作ったことで信頼関係が深まりました。また、他地域の先進事例を学ぶ研修を開催し、価値観やプロジェクトの目指す先を共有しました。

コーディネーター（支援センター）

毎年のように役員が入れ替わる町内会にあって、田中さんが副会長を複数年続けてくださったので関係が単発に終わらずに済んだのだと思います。

ふりかえり（評価）

(1) 事業の実施結果

事前の十分な調整により、怪我や大きなトラブルもなく実施できたことは非常に良かったです。住民との連携や、刈草の撤去に関する市役所との折衝もうまくいき、それぞれが務めを十分に果たすことができました。後日、市役所の道路管理課からも謝意が示されました。

期待していた良い結果

町内会

除草したことにより、見通しが良くなったことで、安全が確保されたことです。また、高齢化が進む地域において、地域住民で取り組むべき活動もままならなくなってきていることもあり、若者の参加は有難い以外何物でもなかったです。

ゆどうふ

地域の方々にゆどうふと、その一事業「わらしべワークプロジェクト」について知ってもらう大切な機会となりました。

予想していなかった良い結果

町内会

除草作業を見ていた住民から「ありがとうね」という労いの言葉と共に差し入れをいただき、町内会の活動に関心を持っていただけました。また、若者と作業を一緒に行ったことで、町内会のメンバーも活動への意欲が高まりました。

ゆどうふ

作業中にボランティアスタッフがかすり傷を負った際、近所の方が絆創膏を持ってきてくださり、すぐに手当てができました。地域の困り事を解決することで、地域の方々の優しさに触れるよい体験となりました。

コーディネーター（支援センター）

後日、町内会の方から「誰がひきこもりの若者かわからなかった」と伺いました。「ひきこもり」には画一的なイメージがあるかもしれませんが、実際に一緒に過ごすことにより、ひきこもりも多種多様であることを実感していただけたと思います。

(2) 協働の一連の取組結果

事業準備段階	プログラム遂行	事業終了後
○	◎	◎

ゆどうふ

準備に一年以上かけたことで、わらしべワークプロジェクトの意義や目的を理解してもらえたように感じています。相利共生の観点に基づき、できることをできる範囲で参加いただきました。

コーディネーター（サポートオフィス）

プロジェクトが目指すことについて参加者同士で話す機会を持ち、事務局であるゆどうふを中心とした、水平な関係を構築していくことを意識しました。

今後の展開

町内会

町内会員の力を生かし、会員が活躍できる環境をつくっていきたいです。また、町内会活動をわらしべワークプロジェクトの若者と一緒に取り組んだり、困り事の解決をわらしべワークプロジェクトに依頼するなど、町内会がひきこもりや生きづらさを感じている若者にコミュニケーションや作業の実践の場を提供できればと考えています。

ゆどうふ

わらしべワークプロジェクトの運営に若者のリアルな意見を反映させながら事業を発展させたいです。

活動者・参加者の声

わらしべワークプロジェクト参加者

「ありがとうね」という感謝の言葉をいただいたこと、ジュースの差し入れが嬉しかったです。

地域住民

誰がひきこもりの若者かわからなかったです。